



PROFILE

Liz Brensinger & Ann Adams

左がリス(53歳)、右がアン(67歳)。「グリーン・ヘロン・ツールズ」という名の会社を興し、女性の身体にフィットする農機具を開発、販売している。自ら開発した「HERS」シャベル以外にも、女性の手にフィットする農業用ハサミなども、ふたりとも野菜作りはベテランで、ほぼ自給自足に近く、Farm-to-Tableのコンセプトが流行する前から、地元のレストランなどに自作の野菜を提供してきた。

1 普通のシャベルには、通常、こんなハンドルはついていない。ハンドルを三なく、大きい四角にすることで、両手で握れるようにした 2 リサイクルの鉄刃の部分を作り、足先を乗せる部分をふつけた。少ない力で土の中まで深く刃が工夫だ 3 サイズはS、M、Lの3つ身長に合わせて自分にびったりな長さがあるので、無理に腰をひねる危険性を減らすことができるという。どのサイズでも価格は\$10年間の保証つき。女性ファーマーの多く集まるカンファレンスで販売したと注目を受けた。ペンシルベニア州立大学エンジニアリング研究室と共同で開発し、地元のシャベルメーカーで製造している「女性の身体に合った農具を使うことで、不要なけがを防ぐことができるし、それ女性ファーマーが増えるきっかけになくれば」とふたり。もちろん自作のシャベルの作業で自分たちも使っている



From ペンシルベニア

「こんな農具が欲しい」を形に。女性の身体にフィットする農具 "HERS"を開発した二人組



4 見渡す限り広がる畑の風景の中で生活する



女性ファーマーを対象にした身体測定値はそれまで存在しなかったため、地元の女性農業従事者たちに、さまざまなシャベルで実際に作業してもらった。作業中の二酸化炭素の排出量から筋肉の動きと疲労具合などを分析。「その結果、男性が主に上半身の筋力を使って作業するのに対し、女性は下半身の力に頼って、作業することがわかったんです」とリス。



5 自宅の庭で採れた野菜。一日でこれだけ収穫できる

そこでシャベルの刃の部分に、足先を乗せることができる平らなステップ

世界で初の女性向けシャベル、「HERS」を開発したリス・ブレンシンガーとアン・アダムズのふたり。アイデアはあっても資金のなかった彼女たちはまず、米国防務省に企画書を送ってみた。すると、思いがけず8万ドルの公的資金を得ることができた。

ペンシルベニア州の田園地帯で野菜作りを楽しんでいた二人組の女性は、長年「農具」に違和感を感じてきた。大きくて重いシャベルや、小回りの利かない草刈り機を使うたび、肩こりや腰の痛みに悩んだ。もっと自分たちの身体のサイズに合う農具があればいいのに、と。そして、世の中にないな

次プロジェクトは、女性用の小さな電動草刈り機。雑草などを引っこ抜くのに使う。音が静かで、小さな力で動かして、小回りの利くマシンを開発中だ。

「農民の妻、じゃなくて、自分で農民になるという選択は、いまや当たり前になりつつある。そんな動きを後押ししたい。使いやすい農具で、もっと農業が楽しくなればいい」と、ふたりは言う。

「ファーマーに腰痛はつきものといわれていたけど、腰を曲げて作業するのはなく、膝を曲げて作業できるようにカーブをつけたの」とアン。

この秋、発売1週間で50のシャベルが売れ、なかには男性ファーマーからも「とても使いやすい」との声も。リスは元ジャーナリスト、アンは元看護師。ふたりとも地元政府の公衆衛生部門で長年働いてきた経歴があり、健康と食には並々ならぬ関心があった。単なる自然食愛好者ではなく、自分たちの手で畑を耕し、鶏を飼い、野菜を栽培し、そして地元のファーマーズ・マーケットで野菜を売るなかで、人脈を築き、地域女性に農業の楽しさを知ってもらうために尽力してきた。農閑期には、ふたりとも農業講演会にひっぱりだこだ。